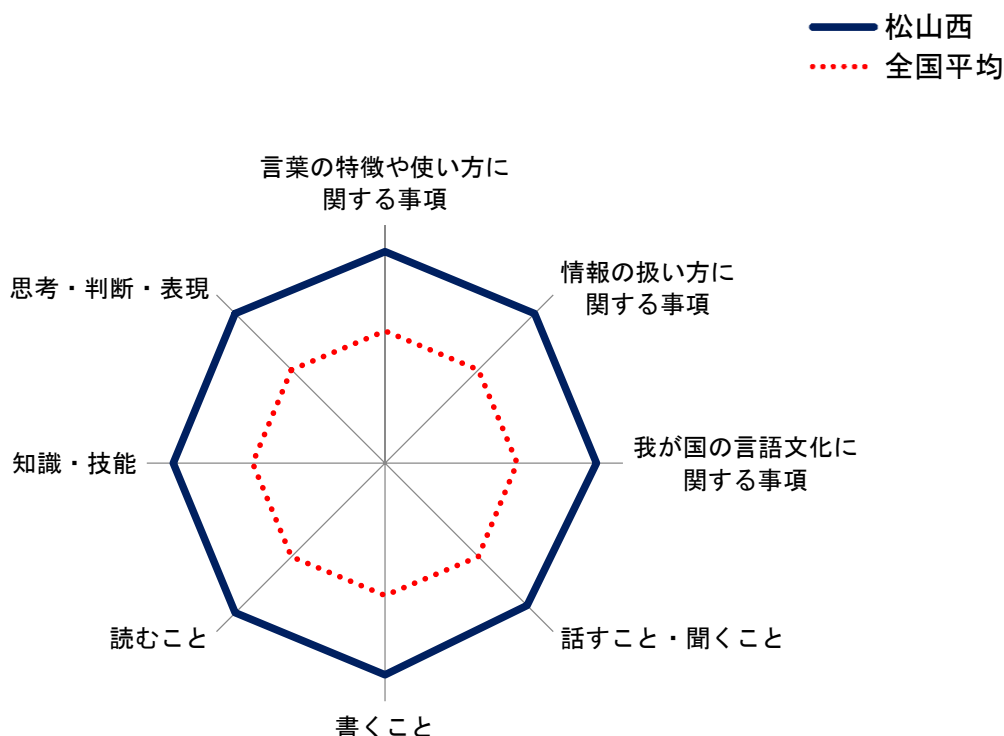


令和6年度 全国学力・学習状況調査  
(各教科観点別等の状況) 【国語】 結果

松山西中等教育学校

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)



【結果の分析と改善策】

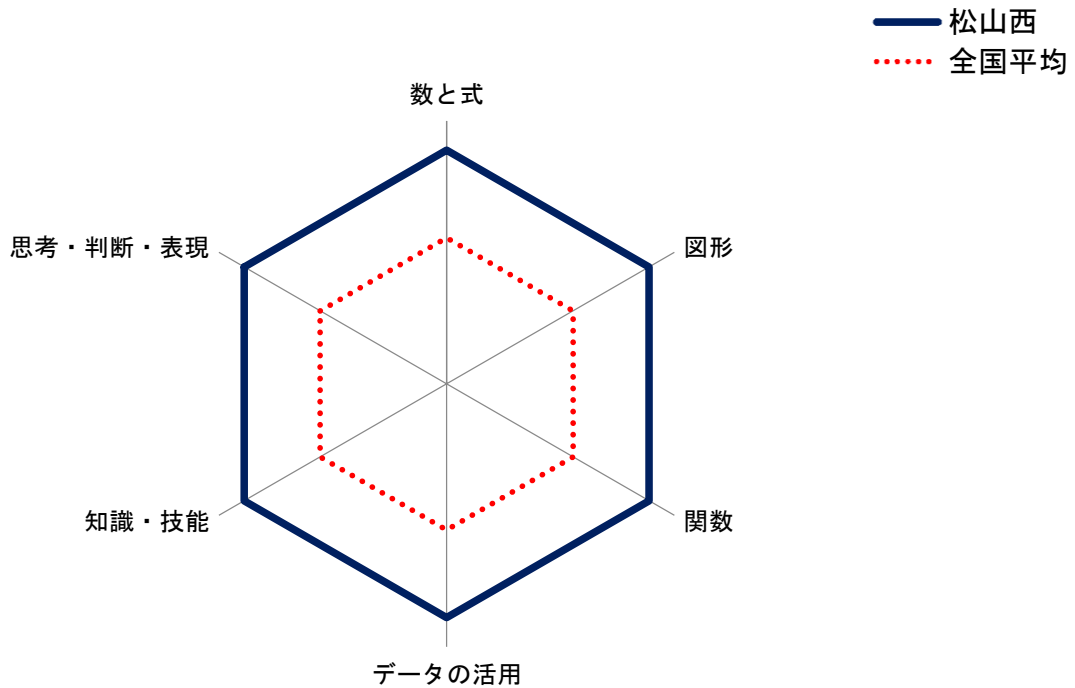
本校の平均正答率は76%であり、全国平均 (58%) を大きく上回っています。これからも、基本的事項の定着とともに更なる力の伸長を図っていきます。

正答率における全国平均との差は、「知識・技能」 (本校80%・全国62%) と「思考・判断・表現」 (本校74%・全国55%) のいずれにおいても19ポイント上回っています。ただし、「知識・技能」は区分別において、全国平均との差がほぼ同じであるのに対して、「思考・判断・表現」では、「書くこと」「読むこと」が全国平均を大きく上回っているものの、「話すこと・聞くこと」における全国平均との差は小さくなっています。出題の趣旨別に見ると、全国との正答率の差が、「目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるか」は29ポイント (本校72%・全国43%)、「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるか」も29ポイント (本校78%・全国49%) であり、どちらも全国平均を大きく上回っています。一方で「必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるか」は全国平均との差が7ポイント (本校70%・全国63%) でした。前者の二つが「書くこと」「読むこと」に分類され、後者は「話すこと」「聞くこと」に分類されます。つまり、「的確に読解する力」と「考えを集約する力」はとても高いのですが、それを実際のコミュニケーションの場で生かすという応用力を今以上に身に付けさせる必要があると考えます。同じ集団で長く学習を継続できるという本校のメリットを生かしながら、緊張感のある議論の場の設定も必要です。外部との交流を国語力伸長の機会と捉えて積極的に活用することを更に促進していきます。

令和6年度 全国学力・学習状況調査  
(各教科観点別等の状況) 【数学】結果

松山西中等教育学校

○ 教科に関する調査 (全国の平均正答率との差)



【結果の分析と改善策】

本校の平均正答率は77%であり、全国平均の53%を大きく上回っており、優れた結果となっています。領域別では、「数と式」において32ポイント、「図形」において29ポイント、「関数」において18ポイント、「データの活用」において20ポイント、全国と比べて高い結果となっています。評価の観点においても、「知識・技能」において21ポイント、「思考・判断・表現」において34ポイント高い結果となっています。

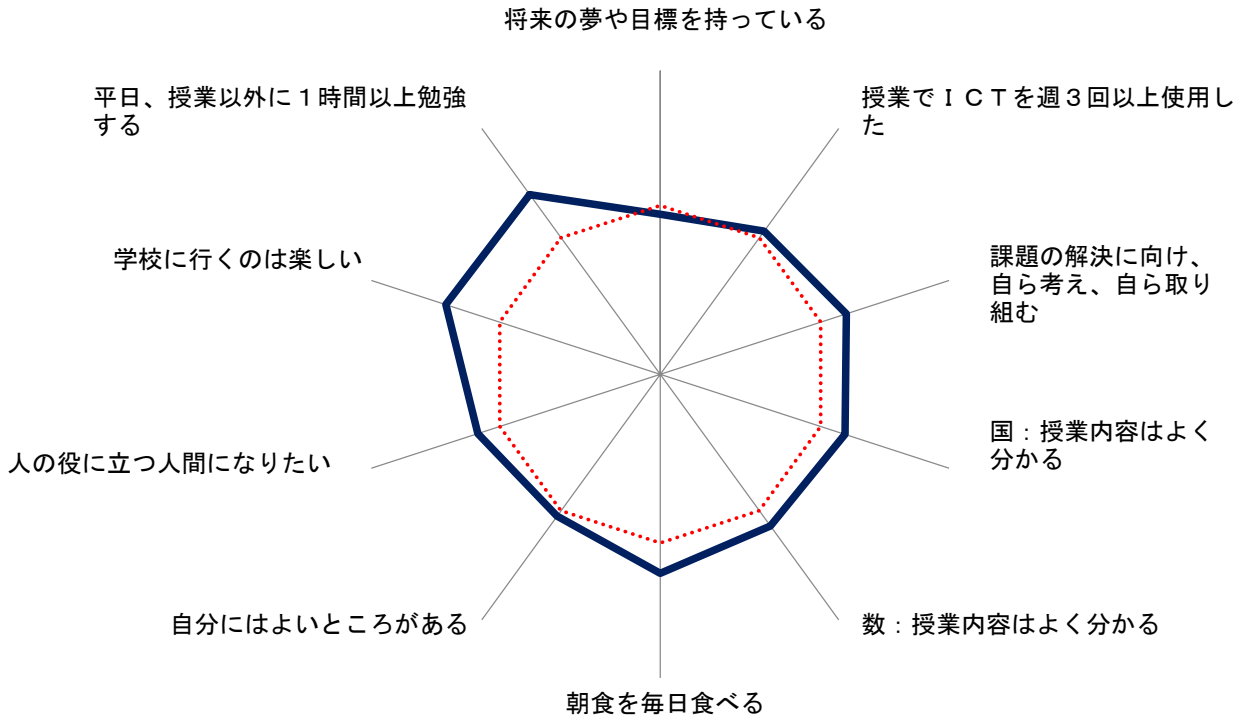
本校で継続して取り組んでいる「日々の課題」や「週末課題」の効果は着実に上がっていると思われます。今年度の課題としては、「関数」の記述力について、他の分野と比較すると正答率が高くない点が挙げられます。スラブの使用時間の違いを「強」の場合と「弱」の場合を表す関数の式やグラフを活用して数学的に説明する問において、読み取れる内容が二つあるにも関わらず、片方のみの説明であったり十分な記述がなされていなかったりする解答が多かったです。「関数」の分野においては、授業を通して既習事項を確認し、演習時間を多く取ることで数学的な見方や考え方を定着させていきたいと考えています。

令和6年度 全国学力・学習状況調査  
 (各教科観点別等の状況) 結果

松山西中等教育学校

○ 生徒質問紙調査 (全国の平均回答率との差: 肯定的な回答)

— 松山西  
 ..... 全国平均



【結果の分析と改善策】

本校生徒は、おおむね基本的な生活習慣が確立されており、一日当たりの勉強時間や読書時間、新聞を読む等の質問で全国平均より高い結果が出ていることから、望ましい家庭生活を送っている様子がうかがえます。特に休日の勉強時間を確保し、余暇を活用して計画的に学びを進められています。「自分にはよいところがある」「困っている人を進んで助けている」「人の役に立ちたい」「地域や社会をよくするために何かしてみたい」の質問に対して、肯定的な回答が全国平均より高い結果となっています。学校生活の充実だけでなく、周囲との関係や社会全体へ視野を広げて生活している生徒が多いことが分かります。今後も体験的活動や話し合い活動を充実させる中で視野を広げ、後期課程においても自己肯定感の更なる伸長を図るとともに、地域の中心となって主体的に活動する生徒の育成に努めます。

学習面では、国語、数学ともに、「授業が好き」「授業が分かりやすい」と答える生徒が多く、意欲的に学習に取り組んでいる様子がうかがえます。ほとんどの生徒が、一人一人の学習への取組について、「学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と答えており、課題意識を持って学習の進め方を調整できていることが分かります。また、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができている」と肯定的な回答が全国平均より5ポイント上回っています。学習指導要領で求められている、多様な意見や他者を尊重し多様な人々と協働して未来を切り拓き、変化を乗り越える資質が育っていると感じています。ICTの活用も進み、授業での実践事例も蓄積されてきました。引き続き、集団や個に応じた効果的な活用方法を研究していきます。